

2016年11月23日開催

国際シンポジウム
「アジア・太平洋 海を越えて活躍する先輩女性たちの魅力
～起業家と企業人の世界から～」における奥田浩美委員による
基調講演 抜粋

「未来を創る仕事～ Entrepreneurship aimed at solving social challenges ～」



- 私は自分の時間の3分の1をすぐにお金になる仕事、3分の1は3年後、5年後ぐらいにお金になるかもしれないこと、残りの3分の1はお金にはならないけれども誰かが担わなければいけないことに分けています。つまりJob（仕事）、Role（役目）、Mission（使命）といったものを3分の1ずつに分けていたのですが、今はこれが一緒になって、いわゆるwork-life Integration（仕事と生活の統合）といいますか、私が生きていること自体が仕事であり、生きていること自体が未来を創るという、そういう生活を送っています。
- 私はよく自己紹介の時に「未来から来ました」と言うのですが、実際、私が言ってきた、例えば女性が男性と同じように働くということは、もう既に25年間ほど実現させています。ですので、私はもう未来を生きています。みなさんは、「未来が自分のところにやってくる」と思っているかもしれませんが、実は未来を生きている人は自分の生活のどこかにもう隠れています。例えば、私はロボット3台と暮らしています。もう既に皆さんの右左（みぎひだり）に未来はもうあるという状況になっていると思います。
- 私は30ぐらいの仕事をしています、「では、あなたの仕事は何ですか？」と言われたら、「私は未来のワクワクを皆さんにお見せる仕事をしています」という一言に尽きると思います。それはどういうことかということ、例えば起業をする人に対して、こういうことをやって起業をしようという未来があるよということを見せるとか、とにかく皆さんがチャレンジしたら、頑張れば何かができる、「失敗、それはするよね」みたいなことがありながらもチャレンジできる空気を作ることだと思います。
- 海外では、起業支援の「エコシステムビルダー」という、れっきとした職業があります。ですが日本では、「空気を作る人」、「畑を作る人」、「土壌を作る人」というのがなかなか仕事として認識されづらいかと思いますが、私はこれを職業としています。
- 将来、半分ぐらいの仕事がなくなると言われていますが、私はむしろ、次から次にワクワクしてことを生み出せる、起業家にとっては時代の変化に伴って新しい分野が発生する、どんどん新しいものが作れる、私にとってはこれが最高の時代、と思っています。
- 世の中というのは不安だけが大きくて、この仕



事がなくなったらどうしよう、どうしようという不安の気持ちが多いと思うのです。ですが、私がお伝えしているようなことを考えていけば、「そうか、世の中これから、男性中心の社会ではなかなか生み出せなかったところの製品がたくさん作れる最高の時代なのではないかな」というのが分かっていただけなのではないかと思えます。

- 私はいつも「これから先は片足だけついて生きていきましょう」と言っています。今までは自分の軸を持ってと言われて、しっかりとそこで生きていくことを学校でも大人からも教えられたと思うのですが、私は同じ場所に片足しかつけません。片足だとグラグラします。でもこれから先はグラグラすることを、不確かなことに慣れていくことが人間として必要なことになっていくと思えます。そして、グラグラしている先に必ずワクワクしたものを発見していくこと、それが私の仕事です。

- 最後に、私の実家は鹿児島で、よく母親に電話をするのですが、電話を切る前に私の母親が、「あなたは将来何になるんだろうね」と言います。毎回毎回母親にその質問をされる度に、「私、将来何になるんだろう」とすごくワクワクしている自分がいます。この不確かな世の中で、あと5年後10年後、絶対に違うことをやっている自信もありますし、皆さんをワクワクさせているんじゃないかと思えます。この瞬間、「皆さん、将来何になりますか」ということを今日から毎日考えてみてください。それを考えると、ある人は起業に向かったり、ある人は会社でもうちょっと上の地位につこうと思ったり、ある人は地域の活動、頑張ろうと思ったり、手法は何でもいいんだと思えます。ですから、毎日、「あなたは将来、何になりますか」ということを皆さんに最後の言葉としてプレゼントしたいと思えます。ありがとうございました。

